

## 若き農業者の夢の実現に向けて～ビジネス塾開催

新潟

普及指導センターでは、10月から12月の短期集中で、平成28年度農業ビジネス塾全5回を開催しました。塾生は20代、30代の農業者5名で、塾生ごとのビジネスプラン作成を目的としました。

講師は武藤勝行中小企業診断士に依頼し、全体研修での講義の他、塾生ごとの個別面談も実施しました。個別面談では塾生のSWOT分析や事業計画に講師からアドバイスをもらい、担当普及指導員と二人三脚でビジネスプラン作成を進めました。また、(有)ワイエスアグリプラントとビジネス塾卒業生の岩崎修氏への視察研修も実施し、先進的な6次産業化やビジネスプ



視察研修で意見を交わす塾生たち

ランの活用方法についても理解を深めました。

12月14日には塾の集大成として、ビジネスプラン発表会を開催しました。塾生は緊張しながらもオリジナリティーを発揮し、熱く自らのプランを発表しました。

講師からは「ビジネスプランは作成したら終わりではない。周囲の支援を受けながら一つずつ改善を進めてほしい。また、プランを定期的に見直すことが必要」というアドバイスがありました。

今後はビジネスプランを作成する過程で明確になった個々の課題について、少しずつ改善できるように普及指導センターも引き続き支援していきます。



ビジネスプラン発表会の様子

## 農業者ならではのもち加工事業の発展に向けて

新潟

切りもちの消費動向は、核家族化・高齢化・食習慣の変化に伴い横ばいから微減の状況にあり、農業者が取り組むもち加工事業においては、消費者に受け入れられる商品づくりが喫緊の課題となっています。そこで、普及指導センターでは、10月25日にもち加工研修会を開催し、もちの消費動向と今後の展望に関する情報提供や技術指導を行いました。また、事前に調査しておいた各事業者の今年産もち米の糊化温度等のデータを提供し、今年度の加工に活用するよう助言をしました。

管内では、農業法人等を中心に16者がもち加工事業に取り組んでおり、大規模メーカーでは出来ない品揃えなど、それぞれが工夫しています。



もち加工研修会



三川公社の様々な商品ラインナップ

その中の一つ、阿賀町の(一財)三川公社の取組を紹介します。公社は、平成22年から「将軍御前もち」と名付けた切りもちの製造販売を始めています。また、自分が栽培した米でついたもちを、別居の家族や親戚等へ贈答したいという方が多い地域の状況を捉え、お客様が持ち込んだ米を加工する受託加工など、ニーズを捉えたきめ細やかな取組が受け入れられています。さらに、地域特産として注目されるエゴマの葉や実、クルミや味噌など、白切もち以外の品揃えも豊富で販売額が伸びています。

普及指導センターでは、年間4回の講座形式で農産加工品販路拡大研修会を実施していますが、三川公社はこの研修会にも参加し、商談用商品アピールシートの作成を通して、どのような売れる商品を作り販売していくか、どう食べ方を提案するかも含め、戦術づくりを行っています。

町をはじめとする関係機関の支援も受け、さらなる売上の向上と、地域ならではのもち文化にさらなる広がりが出るのが期待されます。